

学校教育目標	☆かがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子 【かがやく瞳で意欲的に学ぶ子】○ともに学ぶ楽しさを実感し、多様な考えから自己の考えを深め、意欲的に学び続けようとする子を育てます。(知) 【さわやか笑顔で挨拶する子】○積極的なコミュニケーションを通して、共感的な理解や合意形成を図りながら、共に生きていこうとする子を育てます。(開) 【まごころいっぱい思いやりのある子】○身近な自然や人との交流を通して共感する心を大切にし、よいと思ったことを進んで行おうとする子を育てます。(徳) 【のびのび心も体も健康な子】○体を動かす楽しさを知り、自他の心身を大切にすることをもち、自ら健やかな体づくりに取り組もうとする子を育てます(体) 【このまちを愛する子】○地域の人やものに興味・関心をもちながら進んでかかわり、社会のために自分ができることを考えて行動する子を育てます。(公)				
	創立 42 周年 児童生徒数: 539 人	学校長 中里 純子 主な関係校: 西本郷中学校・西本郷小学校	副校長 谷田部 康代	3 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	西本中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・課題解決をする能力> <自分づくりに関する力>	西本郷中学校 空間小学校 西本郷小学校	小中9年間でコミュニケーション能力を高め 主体的に「まち」で生きる子どもたちを育てます。 ・「特別支援の充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科等域において テーマを意識した授業を展開する。(ブロックで年2回実施) ・児童生徒の交流日や行事の交流を通して、小中間の連携を図る。 ・授業参観や各種会議を通して、育てる資質・能力、目指す子ども像や教師像を共 有する。

中期取組目標	子ども第一。みんな笑顔の温かい学校。～チームかさまで実現!!～ ○【空間の子どもは全職員で指導する】児童支援専任を中心とするチームによる指導の充実を図ります。 ○【授業で勝負】主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業力を向上させ、楽しく魅力ある授業をめざします。 ○【豊かな心の教育の充実】道徳科の授業の充実や親和的な学級づくり、人とかかわりや行事を通して、相手意識や思いやりの心を育てます。 ○【地域の中の学校】地域の「人」や「もの」と関わる学習を大切にし、地域を愛する子を育てます。 ○【チームで協働】互いにのりしろを出し合い、職員一人ひとりが学校をよりよくしようと協働できる組織をつくります。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①算数科の指導を中心として、育てたい資質・能力を意識した授業改善を図り、「自ら考え、生き生きと学びあう」子どもの姿を引き出せるような問題設定や授業展開、支援の手立てを研究する。②板書やICT機器の活用などで、子どもの思考の「見える化」を図り、互いの考えを関連付け、発展的に考える子どもの姿を引き出していく。
担当	重点研推進委員会	
徳	豊かな心	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として、ふれあいやたてわり、体験活動など学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③様々な学習活動や行事、集会などを通して、互いのよさを認め合ったり、子どもの情操を高めたりする。
担当	人権委員会・道徳部	
体	安全・健康教育	①手洗い、うがい、マスク着用、人との距離を指導し、健やかに過ごせるように支援する。②継続して長縄跳びに取り組み、持久力と俊敏性を高め、体力の向上を図る。③学校保健委員会で姿勢について取り上げ、姿勢と健康の関係に気付かせ良い姿勢で生活しようとする態度を身に付けさせる。
担当	安全・健康委員会	
公開	地域連携	①保護者・地域に、教育活動についての発信を工夫し、学校教育への理解を深める。(説明会、授業参観、懇談会、HPでの発信等)②地域コーディネーターと連携し、地域の教材開発や人材開発を通して、まちの教育力による子どもの育成を継続する。③地域との連携を深めるために地域連携部会を発足し、組織の充実を図る。地域連携掲示板で、地域の方の紹介や活動の様子を掲示し、より良い関係を築いていけるようにする。
担当	地域連携委員会	
いじめへの対応		①年2回の「YーPアセスメント」と生活アンケートを実施し、親和的な学級づくりを心掛けるとともに、いじめを見逃さない体制づくりを整える。②「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、組織的な対応を徹底し、職員で共有することで、同じ視点で指導できるようにする。③児童が主体的にいじめの未然防止の視点で取り組む活動を推進する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①週に1回教務会を開き、主幹教諭・教務部が学校全体を見通し、学校経営に積極的に関わっていく場としていく。②ICTを活用した効率化や共有化、業務精選を図るとともに、チーム学年経営やメンターチームなど全職員の組織的な働き改革につなげる。③全職員でのりしろを出し合って、チームかさまで意識した学校運営を行うとともに、学年組織や校務分掌の中でOJTを通して将来像をイメージしたり仕事を覚えたりできるようにする。
担当	教務部・メンターチーム	
特別支援教育		①職員研修を行い、児童一人ひとりや保護者に寄り添い対応できるスキルの向上を図るとともに、ユニバーサルデザイン教育について理解する。②配慮を要する児童の実態と経過について月1回、全教職員で共通理解し、学年と専任を中心としたチームで対応する。③個別の支援計画・指導計画を作成し、必要な支援を系統的に立てて考え、誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。
担当	特別支援委員会・コーディネーター	
児童・生徒指導		①全職員が「空間スタンダード」の内容・意義を理解して指導の一貫性を図るとともに、専任と学年を中心とした児童支援体制のもと、組織的に情報共有・対応していく。②積極的なコミュニケーションを通して、共感的な理解や合意形成を図りながら、子ども一人ひとりが挨拶の大切さや重要性を理解して、挨拶ができるようにする。
担当	児童指導委員会	
幼稚園・保育園との連携・協力		①コロナ禍の中でも交流できる方法を考え、幼稚園・保育園の学びを生かしたスタートカリキュラムや授業展開を工夫する。特に、幼稚園・保育園の表現領域と小学校の音楽科、図画工作科とのなめらかな接続を継続する。②小学校1年生と幼稚園児・保育園児の交流や5年生と年長児の交流を通して、より企画力や実践力をつけたり、下学年を思いやる気持ちを育て、次年度の新入生が安心して入学できるようにしたりする。
担当	地域連携委員会・幼保小担当	
a15		a25
担当		